

彼は會員

国際善隣協会「日中国交正常化45周年」 北京市・甘肅省の旅

「越过火焰山朝西天取经」

日野正子（會員）

旅行に参加した最大の動機は中国の内陸部を見たいという願いでした。北京へは1989年

1月以来28年ぶりでした。

善隣植林地のある甘肅省永靖県（7月23日）、康楽県（24日）をめぐり、蘭州へ（25日）。23

日に劉家峡ダム湖を高速艇で炳靈寺の石窟見学に向かう途中、青い黄河に黄色い水の洩河が合流してコバルトブルーの湖水が泥色に変わる境界線を目撃しましたが、美しい湖面に見とれて心地よい記憶の底に半ばまどろんでいた私は、このまたとないシャッターチャンス逃してしまいました。

28日、北京での最後の訪問先中国国際放送局（CRI）では、日本語部の王小燕アナウンサーからCRIの概要と中日交流活

動について熱のこもった説明を受けました。

会議室から食堂室に移動中に小燕さんと短い会話を交わしました。小燕さんとは、当協会の矢吹晋氏をはじめ、神崎民子氏（同時通訳者）、故青木昌彦氏（経済学者）など各界の大先達について話題を共有できることを知り、彼女に対する尊敬の念と親愛の情が高まりました。それで、食事の席で彼女から、

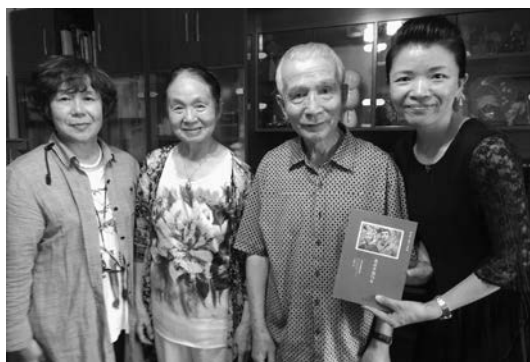
「大地の子」（原作…山崎豊子）のモデルとなった人物が中国の養父母のために自費出版した本『我在中国75年』を日本語に翻訳してくれる人を探しているのですが……という呼びかけがあった時、それに応えることに迷いはありませんでした。小燕さんはその場で著者の王林起氏に電

村田さんと牛木さんの同行を得て、ご自宅まで伺うことになりました。

著者のご自宅に伺う途中、旅行中に書いた絵ハガキを北京で投函したく、小燕さんの案内で、郵便局に寄るのに今流行のGPS活用・乗り捨てレンタル自転車に乗るという得難い経験もしました。

王林起さんは近くまで出迎えてくださり、ご夫妻で、涼しい部屋と温かいお茶とよく冷えたクルミの缶飲料でもてなしてくださいました。午前中母上を見舞ったばかりという撮りたての家族写真と、古いアルバムを見せていただき、お話をうかがいました。最後に記念写真を撮り、本にサインをいただき、お暇しました。小燕さんのメールによ

話をし、大変喜ばれた由、出来ればこれからお会いしたいとの申し出を受け、



中央が王林起夫妻。左が筆者。

ると、バス停でお別れした後、王さんは大変ほっとした表情で、「心の中で念じ続けると、物事は成就する。今回も念力が通じたようです」とポツリと言われたそうです。

甘肅省↓北京市とめぐったこの度の国際善隣協会の旅は、艱難辛苦の旅でした。『孫悟空』の中に「越过火焰山朝西天取经」という話がありますが、火焰山も見た私にとりまして、その御経は『我在中国75年』であったような気がいたします。